

第2回 小美玉市新まちづくり構想実施計画策定委員会会議結果

- 1.日 時：令和7年9月1日（水）13：30～15：05
- 2.場 所：本庁3階 議会委員会室
- 3.出席者：委 員：熊澤委員、長島委員、石井委員、桐原委員、重藤委員、黒羽委員、岩本委員、
本田委員、山西委員（欠席：深谷委員）
小美玉市：倉田産業経済部長、朝比奈都市建設部長、
榎戸商工観光課長、山口商工観光課参事、
高田特定プロジェクト推進課参事
事 務 局：商工観光課 清水係長、才川主幹、廣山主幹
特定プロジェクト推進課 富田係長
委託事業者：デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー（合）
河野氏、奥田氏、佐藤氏、杉島氏、嵯峨山氏

【主な内容】

1. 開 会
2. あいさつ
3. 協議事項

- (1) 各施設の導入機能・利用イメージに係る検討・・・資料 1－1
日本立体（株）視察・意見交換の結果報告

【質疑・意見要約】

百里飛行場前新交流拠点について

- （委 員）現時点で施設の利用時間についての考えはあるのか。
- （事務局）本策定委員会の中で導入機能と合わせて検討していればと考えている。
- （委 員）将来、旧下吉影小学校が売却等になれば、現在体育館を利用している地域の方の活動場所が無くなるので、夜間も利用できる施設になるとありがたい。
- （委 員）防衛省補助金の趣旨でもある、自衛隊等との交流支援では、地元百里基地も市民にとっては一つの就職先と考える。自衛官の募集などもPRできるとよいのでは。
- （委 員）本計画は、子供やファミリーをターゲットとしているので、「新交流拠点」と「そらら」が相乗効果でうまく機能するとよい。
- （委 員）新施設については、いかに人を呼び込むかが重要であり、「そらら」や「空港」への波及効果を期待する上でも、紹介のあった市内企業の模型展示は良いと考える。

(委員) 多目的スペースでは、空港利用促進協議会や、市民を含む多様な方々が自由に企画してイベントを開催するなど活用の需要はあると想定される。

(委員) 市内企業制作の航空模型は、海外でも人気のアニメとのコラボなどが考えられ、他にはないツールとして面白い展示だと感じる。地元のお土産だけでは集客や収益を上げることは難しいので交流拠点の企画とコラボしたお土産を販売することは、「そらら」とともに相乗効果が期待される。

(委員) 計画地である「空港シンボル広場」と「北山池」の間にある道路は施設整備とともに改変されるのか。

(事務局) 当該道路は、空港公園の園路として活用されているが、空港線の北と南を行き来する道路としても地域住民が利用しているため、基本的に現状のまま活用する予定である。

(委員) 市内に、このような全国に航空模型を納入する企業があることを初めて知った。今までは大型遊具など子供たちだけが楽しめる遊具を希望していたが、先ほども話のあったアニメとのコラボなど特色を打ち出すことが多様な人たち関心を引き賑わいにつながると思う。また、映像を駆使した体験や情報の発信、衣装を着て写真撮影など取り入れていただけるとより魅力的な施設になると思う。実現できるように応援したい。

(事務局) 県内外の子供たちの校外学習などで茨城空港を見学に来ることが多々ある。その際、お弁当を食べるスペースの問い合わせが多い。この施設で、航空模型や百里基地の歴史といった展示を通して社会教育や平和学習をしていただき、お弁当を食べるといった活用も考えている。

(委員) 自衛隊と市民との交流という面では、どのようなことが考えられるのか。

(委員) 外国との共同訓練や飛行共同群等が巡回してくる訓練等の際に、外国の方や、地域住民、基地の隊員などとの交流の機会を設けることが考えられる。

(委員) 自衛隊との交流という面では、昔は、地域の運動会など自衛隊と地域住民との交流は多かった。当然、自衛隊に反対する方もおられて、そういう場で意見交換することは有意義であった。基地との共存共栄の観点からは、自衛隊等との交流は必要。

(委員) 航空模型の展示と合わせて、シミュレーターなどで体験できることが集客やリピーターの獲得などの賑わいにつながる。今の子供たちはテレビゲーム等で現代の飛行機ならなじみがあるかもしれないが、市内企業が製作する「赤とんぼ」等、昔の航空機の操縦は難しいので、それを体験してもらうのは他にはなく、数種類のシミュレーターを設置する方が面白いと思う。

(委員) 自衛隊の広報も併せて、隊員募集をしてはというご意見もあったが、警察や消防など、他の公務員もなり手不足が問題となっているので、自衛隊だけを PR するというのは難しいのではないか。

(委員) 施設規模について、図面だけではイメージがつかないので、委員会で現地見学をしてはどうか。

(事務局) イメージについては、写真等でお示しすることも可能。また、現地見学後、ご審議していただくことも可能なので、ご意見をいただきながら進めていきたい。

(委員) 市内企業の実物大模型の製作費はどのくらいか。

(事務局) 他の納入実績をお聞きした際は、一機あたり、2,000～2,500 万円程度と聞いている。また、手作りで製作には 1 年かかるとのこと。また、模型設置についても防衛省の補助も活用は可能。運営を指定管理等で進めるためには、物販スペース等の収益がでる機能も必要と考えている。

(委員) 防衛省の補助を活用した場合は入場料を取ることは問題ないか。

(事務局) 維持管理の範囲内では入場料も可能と聞いている。収益だけを目的とした整備は補助対象外になる。

(委員) 多目的スペースについては、何をどのくらいの規模で実施するなど、利用目的を明確に想定したうえで面積や構造を検討すべき。避難所としての活用も考えているのか。

(事務局) 避難所として活用する場合は、災害備蓄品保管や収容人数など、課題が多いため、一時避難場所程度で位置づけたいと考えている。近隣には「空港」や「そらら」「学校」等もあるので、役割分担しながら進めていきたい。

(委員) 多目的スペースの利用法については、近隣の施設機能を整理したうえで、不足している機能を補完できるようにすべき。

(委員) スポーツや、子供たちの学習の場も想定するのであれば、それなりの備品整備も必要になる。バレーやバトミントンの資材置き場や、スクリーン・イス・テーブル等の備品も考えなければならない。

「そらら拡張」について

(委員) 拡張機能として各種工房は現実的に難しいと感じる。手作りプリンの販売を行っているが、経営としては厳しい。「新交流拠点」で集客して、「そらら」で買い物といった方法で展開していくとよいと思う。

(委員) 現在「そらら」にはレストランがないが、原価率の面ではレストランは良い。中でも室内バーベキューが一番原価率が良い。他施設でも一番利益が取れている。

(委員) フレンチや和食などは利益が薄く、経験上、カレーライスのバイキングは回転率もよく利益が出やすい。

(委員) チーズ工房・ミート工房・地ビール工房については、同意見で、他市町村の事例を見ても難しい。建物が特殊な形をしているので物販エリアが狭い。直売所や物販部分を広げるといったことも考えなければならない。

(委員) 現在指定管理者を募集しているということなので、指定管理者の意見を聞くことが重要だと思う。

(委員) 直売所やチャレンジショップが3つあるが、狭くて使いづらいという話を聞く、補助金の関係で改修できないのか。

(事務局) 補助事業の処分期間に該当する場合は、建物や設備の改修に伴い、補助金の返還が必要になる。検討が必要。

(2) 市民アンケートの概要等 . . . 資料2

【質疑・意見要約】

(委員) アンケートを実施する時期は。

(事務局) ネットモニターと小中学校保護者向けアンケートは9月中、無作為抽出でのアンケートは10月中に実施できればと考えている。また、今回、実施計画では、「新交流拠点」と「そらら拡張」と、2つの施設が対象なため、この3種類の手法から、それぞれの施設の目的に応じて、手法を選択して実施する。

(3) 次回会議の日程について

日時 11月25日(火) 10時00分～

会場 未定

4. その他

5. 閉 会